

研究ノート

## 『あしながおじさん』の邦訳比較

— 翻訳のあり方を考える —

佐伯 淳

キーワード：あしながおじさん, *Daddy-Long-Legs*, 日本語訳, 比較

## 要 旨

本研究ノートはジーン・ウェブスターによる *Daddy-Long-Legs* の邦訳6冊についてその翻訳の質を吟味することを通し、小説翻訳のあるべき姿を探ったものである。比較に用いたのは作品の一部であるが、センテンスごとに逐一、吟味することにより精密な比較を行った。その結果、新しい翻訳、著名な文筆家による翻訳が必ずしも質が高いとは限らないことがあきらかとなった。ここに示した比較の方法は他の多くの作品についても応用可能なものである。

ジーン・ウェブスター(1876-1916)による *Daddy-Long-Legs* が発表されたのは1912年のことである。それから12年後の1925年には早くも翻訳家の東健而(1889-1933)により『蚊とんぼスミス』の題名で邦訳が発表されている。以来、わが国ではこの小説は『あしながおじさん』という題名で数多くの翻訳されてきた。

しかし、その翻訳の質にかかわる論議はほとんどなされてこなかった。本書『あしながおじさん』は年少者から大人まで広く読まれる小説である。そのため、翻訳の質を検証し、後世に残していくべき翻訳はどれかをあきらかにすることの意義は高い。

本研究ノートは今日、刊行されている翻訳のうち6冊について、翻訳の質を比べ、吟味し、あるべき翻訳の姿をあきらかにすることを目的としたものである。この作業を通して得られた翻訳批評の手法は他の翻

訳作品についても応用可能なものであり、その意味で本研究は翻訳比較の手法の開発につながるものである

## 比較の方法

本研究でとりあげたのは次の6つの翻訳である。邦訳の題名はいずれも『あしながおじさん』である。

- 山主敏子訳 (ポプラ社, 1978年10月)
- 恩地三保子訳 (偕成社, 1985年10月)
- 曾野綾子訳 (講談社, 1989年12月10日)
- 谷口由美子訳 (岩波書店 (2002年2月18日))
- 谷川俊太郎訳 (理論社, 2004年2月)
- 坪井郁美訳 (福音館書店, 2004年6月15日)

この小説は主人公が書いた手紙により物語を構成したもので、手紙文にその特徴がある。そこで、ジュディがはじめてあしながおじさんに宛てて書いた9月24日付の手紙の全文について、そのひとつひとつの文ごとに6冊を比較した。

以下、(ポ)、(偕)、(講)、(岩)、(理)、(福)は出版社名の最初の文字で、それぞれの翻訳の略称とする。たとえば(ポ)はポプラ社の翻訳という意味である。

### 文ごとの比較

比較は原著のセンテンスごとに行った。以下に示す番号は原著でジュディがあしながおじさんに宛ててはじめて書いた、9月24日付の手紙におけるセンテンスを順に示したものである。頭語、結語などはセンテンスではないが、センテンスに準じて扱った。その数は全部で45である。

#### (1) 215 FERGUSSEN HALL

(ポ)のカナ書き「ファーゲッセン寮」は英語の発音を正しく伝えていない。「ファーガセン寮」とするべきだろう

(理)はこの1行前に「とてもとてもしあわせ——大学一年生時代の手紙——」と原著にない題名を加えている。原著にない題名を加えるのは改変にほかならない。読者の便宜を図り、読みやすくする意図であっても、その旨、冒頭に記載しておくべきであろう。

#### (2) September 24th.

(偕)は「アメリカの学校は九月から新学期になる」と注をつけている。これは学校の制度が異なる日本の読者には親切な配慮である。しかし、注は読者の読みを中断させる難点がある。注でなく、本文中にさりげなく情報を入れるような工夫の余地を考

えることはできないだろうか。

#### (3) Dear Kind-Trustee-Who-Sends-Orphans-to-College,

どの翻訳も(福)「孤児を大学にやったださる親切な評議員様」のように訳していて、大きな違いはない。ただし、(ポ)は「孤児を大学へお送りくださった親切な評議員さまへ」と過去の意味で表しており、原文の意味と異なる。現在形 sends ではあしながおじさんはジュディの他にも孤児を大学に送ることがあるとも読めるが、これを「お送りくださった」とするとあしながおじさんが孤児を大学に送ったのはジュディだけという意味になる。

#### (4) Here I am!

(ポ)は冒頭「ジュディとよんでね」とタイトルを付けている。この後にも「六枚の新しいドレス」、「楽しいクリスマスの休み」のように原著にないタイトルをつけている。全体の構成をわかりやすく示そうとした工夫ではあるが、原著にないタイトルを加えるということは訳者による解釈を加えることにほかならない。もし、それがどうしても必要であるならば、その旨、記載して読者に示すべきである。

なお、この(ポ)はこの訳を「わたくしはここにおります」としており、これは誤訳である。この Here I am!は「やっとなどり着きました」、「さあ、いよいよ」という気持ちのことばである。また、これは誤訳である他にも「さあ、やっとなど」というジュディの感激が伝わらないので翻訳として不適である。最初の手紙の冒頭であるだけにその誤りは深刻である。

(理)はこの訳を「こんにちは!」としている。これも原文の意味を伝えていない。「こんにちは!」ではあまりにもありきたりな書き出しである。ジュディの心躍る気

持ちが伝わらず、翻訳として失格である。

(福), (岩) はともに「とうとうやってきました！」と訳している。原文の意味をよく表し、ジュディの心躍る気持ちを上手に表した訳である。

(5) I travelled yesterday for four hours in a train.

どの翻訳も (ポ) 「きのうは四時間も汽車の旅をしました」のように訳しており、基本的な違いはない。

(6) It's a funny sensation, isn't it?

これには翻訳に大きな差がみられた。

(ポ) 「ドキドキするような気分でした」

(偕) 「汽車に乗るって、なんだか胸がどきどきするものですね」

(講) 「とても不思議な気持ちでした」

(岩) 「わくわくして不思議な気分でしたよ」

(理) 「汽車っておもしろいものですね」

(福) 「わくわくするような妙な気分ですね」

「どきどき」「わくわく」という訳は正確ではない。この funny は curious, queer, odd, strange の意 (*Oxford English Dictionary*) である。これまで汽車に乗ったことのないジュディが初めて乗ったときの気持ちである。自分が自分でないような、奇妙なというほどの意である。訳として合格なのは (福) と (講) だけ。(理) は誤訳である。

(7) I never rode in one before.

(理) の「いままで乗ったことなかったけど」は意味が伝わらない。これは汽車に乗って妙な気分がした、そのわけはという理由を語るものなので「...けど」ではなく、「...ですから」としなければ意味が通じない。

(8) College is the biggest, most bewildering place--I get lost whenever I leave my room.

(ポ) の訳「大学はものすごく大きくて、わたくしは部屋を出るたびに迷子になります」には most bewildering place の訳出が落ちている。(理) の「大学って世界じゅうでいちばん大きくて、いちばんわけのわからないところ」は誤訳。原文の the biggest という最上級は文字通りの意味ではなく強調。「わけのわからない」も誤訳。ここでは次にある「部屋を出たとたん迷子になる」とほぼ同じ意味。ジュディが長年住んでいた孤児院のような小さな場所とは異なり、大きな建物なので迷ってしまうということである。「わけのわからない」では別の意味になる。

(9) I will write you a description later when I'm feeling less muddled; also I will tell you about my lessons.

(ポ) はこの訳出を落としている。

(10) Classes don't begin until Monday morning, and this is Saturday night.

(偕) の「授業は月曜の朝から始まるのに、いまは土曜の夜ですから」は意味が伝わらない。これは、まだまごまごしていますが、授業が始まるのは明後日の月曜ですから、慣れるまでまだ余裕がありますという意味を踏まえたもの。(偕) はその意味が伝わらない。

(講) は「授業は月曜日の朝にならないとはじまりません」で改行し、段落を変えて「今は土曜日の夜です」と続けている。この次には「でも、わたくしは、まず、お近づきのお手紙をさしあげたいと思ったのです」と続けている。ここで「でも」を使うと文脈が続かない。

(11) But I wanted to write a letter first just to get acquainted.

(偕)は「でも、とりあえずこの手紙を書きたいと思います、おちかづきになるために」としている。ここで「とりあえず」は上手な訳で、firstとjustの意味をよく伝えている。(岩)の「何はともあれ、最初にあなたにお手紙を書いて、これからよろしくといたかったんです」も上手な訳。この「最初に」は「まず」とすればもっとよかった。

(理)の「でもお手紙したかったんです、ほんの自己紹介までに」は誤訳と言えよう。相手のあしながおじさんはジュディのことを知っているので自己紹介はおかしい。

(12) It seems queer to be writing letters to somebody you don't know.

(理)は「どんなかたかも知らずに、お手紙書くなんでなんだかへんですね」としている。これは誤訳と言えよう。「どんなかたかも知らずに」ということは、その人についての人となり、性格などを知らないということになる。ここで somebody you don't know は「会ったこともない、名前も知らない人」ということ。

(13) It seems queer for me to be writing letters at all--I've never written more than three or four in my life, so please overlook it if these are not a model kind.

(講)は「生まれてから、三度か四度しか手紙というものを書いたことがないので、へたなお手紙になるでしょうが、ゆるしてください」は訳しすぎて誤訳に近い。ジュディの言う「模範的な手紙と言えないとしても」は下手な手紙という気持ちではない。

(理)の「うまれてこのかたまだ三通か四通かな、書いたのは」はあまりにもくだけすぎており、文体としてふさわしくない。また、さらに続く「ですから模範手紙文例

みたいなのが書けなくとも、どうかごかんべん」は翻訳として首をかしげる。「どうかごかんべん」では相手を茶化したとしか感じられない。(福)の翻訳はみごと。「だいたい、わたしが手紙など書くことからしておかしいですけど」は It seems queer for me to be writing letters at all の at all の意味をよく伝えている。

(14) Before leaving yesterday morning, Mrs. Lippett and I had a very serious talk.

(ポ)は yesterday morning を「昨朝」としている。固すぎる表現で、少女が手紙で使う表現としては違和感がある。(ポ)、(偕)、(講)、(福)は Mrs. Lippett を「リペット先生」としている。(岩)は「リペット院長」としている。(理)は「ミセス・リペット」である。ここで Mrs. Lippett の訳としては「リペット院長」がふさわしいだろう。(講)の「リペット先生とたいへん真剣なやりとりがありました」は誤訳。ここで had a serious talk と「話をした」と書いてはいても、ジュディはリペット院長の話をまじめに聞いたということ。「真剣なやりとりがありました」ではジュディも意見を言い返し、ふたりが議論したという意味になる。(理)の「とても深刻な話をしました」も誤訳。この serious は「深刻な」ではなく、「(冗談ではなく)まじめな」という意味。(福)は「たいへん重要なお話をしました」としている。この「重要な」はすなおに読め、上手な訳である。

(15) She told me how to behave all the rest of my life, and especially how to behave towards the kind gentleman who is doing so much for me.

ここで(ポ)、(偕)、(岩)、(理)、(福)は gentleman を「紳士」と訳出している。(講)は「こんなに親切にしてくださるかた」と

している。日本語の「紳士」はともすればうわべだけの意味にとられがちなので、ここでは避けるのがよい。ここでは「かた」とした(講)の訳が望ましい。

(16) I must take care to be Very Respectful.

ここは訳出に気をつけたいところ。(ポ)は「わたくしは、とても礼儀正しくしなければいけないのでございます」としている。これでは茶化しているように聞こえる。

(岩)は「『最大の敬意』を払うように努めなさいといわれました」は上手な訳。原文では Very Respectful と大文字を使って意味を強調している。「最大の敬意」はこの意味をよく伝えている。

(理)は「わたしはあなたに『あらあらかしこ』って書くように気をつけなければいけないのです」は誤訳。手紙の末尾に敬具の意味で Respectfully と使うことはあるが、原文の Very Respectful はこれとは違う。

(16) But how can one be very respectful to a person who wishes to be called John Smith?

(偕)の「でも、ジョーン＝スミスなんて平凡な名前でもんでくれとおっしゃる人に、どうしたら礼儀ただしくすることができるのでしょうか」は良訳。ここでは英語圏では John Smith はどこにもみられる、ありふれた名前という背景を踏まえたもの。「平凡な名前」としたのは良い工夫。ただし、「ジョーン」は「ジョン」の方がよい。「ジョーン」とするとジョーン・バエズの(Joan Baez)の Joan のように聞こえる。(理)の「でもジョン・スミスなんてよばれたがっている人に、『あらあらかしこ』なんて書けますか？」は直前の文の誤訳を受けた誤訳。

(17) Why couldn't you have picked out a name with a little personality?

(偕)は a name with a little personality を「もう少し人間味のある名前」としている。原文のこの表現は「他の人とは違った、自分らしさの表れた」という意味である。「人間味」は意味がずれる。

(18) I might as well write letters to Dear Hitching-Post or Dear Clothes-Prop.

(ポ)はこの文の訳出を落としている。

(岩)は「馬のつなぎ杭様」、(福)は「馬つなぎ柱様」としているが、これでは分からない。ここで hitching post は家の前などに馬などをつなぐために立ててある柱のこと。

(講)は「馬をつなぐ棒ぐいさま」としている。この方がわかりやすい。(理)は「まるでミスター棒ぐいか、ミスターものほしぎおに手紙書くみたい」としている。ここで「ミスター」を使ったこの言い方は読者には意味が伝わらないだろう。(偕)は Hitching Post を「馬つなぎ棒」としてはいるが、「これはまるで馬つなぎ棒か物干しぎおにむかって、手紙を書いているのと同じようなものです」はわかりやすい。

(19) I have been thinking about you a great deal this summer; having somebody take an interest in me after all these years makes me feel as though I had found a sort of family.

(講)は「この夏のあいだ、いろいろわたくしのことを考えてくださってありがとうございました。いまごろになって、わたくしのことを考えてくださるかたがいらっしゃるなんて、まるでわたくしの家族ができたようにうれしいです」と訳している。ここで「この夏のあいだ、いろいろわたくしのことを考えてくださってありがとうございました。いまごろになって」は誤訳。

(20) It seems as though I belonged to

somebody now, and it's a very comfortable sensation.

(ポ), (講)はこの文の訳出を落としている。(理)はこの前の文とこの文をまとめて次のように訳している。

「この夏はあなたのことばかり考えていました。長いあいだひとりぼっちだったのに、いまではだれかがわたしに興味をもってくれているなんてなんだか家族っていうようなものをみつけたような、だれかと血のつながりができたような気がする、これはすごくぬくぬくとした感じです」

これは文が長く、意味がとりづらい。ふたつの文をひとつにまとめて訳出する意味があったのだろうか。

(偕)は comfortable を「心たのしいです」と訳している。これは comfortable の意味とは違うもので、正確な訳出とは言えない。(岩)は「やっとだれかの身内になれたという気がします。それって、ほんとうにしみじみとうれしい気持ちなんです」としている。「身内」は日本語としておさまりのよい訳だが、「しみじみとうれしい気持ち」では comfortable と意味が異なるように思える。

(福)の「やっとだれかの身内になれたという感じです。とてもこちよい、すてきな気分です」は原文の意味にそって日本語らしく訳出した上手な訳出である。

(21) I must say, however, that when I think about you, my imagination has very little to work upon.

(福)の「あなたのことを思い浮かべようにも、想像をはたらかせる手がかりがほとんどないので」は上手な訳。原文の very little to work upon の意味を「手がかり」ということばでよく表している。他の訳はこ

の点についての表現の工夫がない。

(22) There are just three things that I know:  
6冊に基本的な違いはない。

(23) I. You are tall.  
6冊に基本的な違いはない。

(24) II. You are rich.  
6冊に基本的な違いはない。

(25) III. You hate girls.  
6冊に基本的な違いはない。

(26) I suppose I might call you Dear Mr. Girl-Hater.

(岩)の「そういうわけで、これからは女の子ぎらい様とお呼びしようかと思えます。なんだかあたしがばかにされているみたいですけれど」は日本語としてこなれた上手な訳出。(理)の「あなたのことを、ミスター女ぎらいとよんでもいいと思うけれど」は訳出として評価できない。「ミスター女ぎらい」では大人の男女の生々しい関係を思わせる。

(27) Only that's rather insulting to me.  
6冊に基本的な違いはない。

(28) Or Dear Mr. Rich-Man, but that's insulting to you, as though money were the only important thing about you.

(講)の「それともお金持ちがいいでしょうか」は訳として拙劣。Mr. Rich-Man と名前にひっかけた意味が読み取れない。(理)の「ミスターお金持ち」も上手くない。これでは軽薄すぎる。

(29) Besides, being rich is such a very external quality.

(ポ)はこの文の訳出を落としている。

(講)の「お金持ちだということは、ほんとうに見せかけだけのことです」は意味に誤解を生む。これだと実は貧乏という意味になる。

(30) Maybe you won't stay rich all your life; lots of very clever men get smashed up in Wall Street.

(講)はこの部分の訳出を落としている。

(理)の「株で失敗したりこう者はいっぱいいますもの」はわかりやすい訳。(理)はおおむね訳しすぎて失敗しているが、ここは上手な訳出。

(偕)、(福)は「ウォール街」に注を付け、巻末を参照させている。ウォール街の意味を知らないと理解ができないことに対する配慮ではあるが、巻末への参照は読みづらい。せめて同じページに注をつける工夫をしてほしい。(岩)は「ウォール街」の直後に(ニューヨークにある株売買の中心地)と小さい字で説明している。

このような場合、読みの流れを乱さないよう、「株の売買に勝負をかけるウォール街」のように地の文にさりげなく説明を加えるようにしてはどうだろうか。

(31) But at least you will stay tall all your life!

6冊に基本的な違いはない。

(32) So I've decided to call you Dear Daddy-Long-Legs.

6冊に基本的な違いはない。

(33) I hope you won't mind.

6冊に基本的な違いはない。

(34) It's just a private pet name we won't tell Mrs. Lippett.

(講)はここで改行し、段落を変えている。原文とは異なるもので、望ましいものでは

ない。(理)は「わたしたちだけの名前です—ミセス・リペットにはないしょ」としている。この「ないしょ」はくだけすぎて原文の気持ちを伝えていない。原文は口語で親しい気持ちながらも相手を敬う気持ちの文章である。(福)の「これはわたしだけが呼びする愛称ですから、リペット先生にはないしょです」は(「リペット先生」を「リペット院長」とするのがベターだが)上手な訳である。

(35) The ten o'clock bell is going to ring in two minutes.

6冊に基本的な違いはない。

(36) Our day is divided into sections by bells.

(偕)の「わたしたちの毎日は、鐘で区切られています」、(講)「わたしたちの一日は鐘で分けられています」、(理)の「ここでは一日は鐘でくぎられているのです」は意味が伝わらない。(福)の「わたしたちの一日はかねの音でこまかく区切られています」ももう少し工夫がほしい。(岩)の「ここでは一日の流れが鐘の音で区切られているのです」はわかりやすい訳出である。

(37) We eat and sleep and study by bells.

(ポ)は(36)と(37)の文をまとめて訳出している。原文のリズムを伝えているかやや不安がある。

(38) It's very enlivening; I feel like a fire horse all of the time.

(偕)はenliveningを「いさましい」と訳出している。これは意味がずれるだろう。

(講)はこの文の訳出が落ちている。(岩)の「なんだか張りきってしまいます」はわかりやすい。(理)の「はりきっちゃいます」は軽すぎる。(福)は「すぐくせきたてるよ

うな鳴り方なので」としている。「せきたてる」では否定的な意味が現れるのでうまくない。この enlivening は「活気づける」の意である。

(39) There it goes!

6冊に基本的な違いはない。

(40) Lights out.

(講)の「明かりが消えます」は誤訳。この Lights out. は「消灯」という意味の号令。小説で実際に号令がかかったわけではないが、ジュディはあたかも「消灯」という号令を意識してこの表現を使っている。(岩)、(福)の「消灯です」という訳も号令の意味は出ない。

(41) Good night.

6冊に基本的な違いはない。

(42) Observe with what precision I obey rules--due to my training in the John Grier Home.

6冊に基本的な違いはない。

(43) Yours most respectfully,

(講)、(福)は「かしこ」、(理)は「あらあらあらかしこ」。18歳の少女が使うだろうか。(偕)はこれを訳出していない。

(44) Jerusha Abbott

(偕)は「ジェルーシャ・アボット様」としている。18歳の少女が「様」を使うだろうか。

(45) To Mr. Daddy-Long-Legs Smith

6冊に基本的な違いはない。

### 結果と考察

さし絵 原著には著者ジーン・ウェブスタ

ーによる線画のさし絵がついている。これは主人公ジュディがあしながおじさんに宛てた手紙に添えた絵とも読める。しかし、翻訳ではさし絵の扱いがさまざまである。

(ポ) 原著さし絵も使っているが、少女マンガ風の絵を新しく加えている。

(偕) 原著のさし絵

(講) 原著とは異なるマンガ風のさし絵

(岩) 原著のさし絵

(理) 原著さし絵を改変したもの、原著風に新しくさし絵を加えたもの

(福) 原著のさし絵

原著さし絵はテキストと不可分のものと考えられる。その点から原著さし絵をそのまま使った(偕)、(岩)、(福)の姿勢は好ましい。反対に原著の趣旨から著しくはずれることになったのは少女マンガ風のさし絵を加えた(ポ)である。100年前の時代の息吹を感じることでできる原著とは大きくかけ離れたイメージになる。

内容の省略 原著テキストのセンテンスをまるまる訳出から落としているのは(ポ)と(講)である。(ポ)には3箇所、(講)には2箇所みられた。訳出しなかったのは不注意から見落としたのか、あるいは別に理由があつてのことかは不明である。訳出が落とされている部分は内容に差別的なものがあるといったものではない。不注意であれ、意図的であれ、原著の内容を削除して読者に示すのは原著の改変であり、慎むべきことである。なんらかの理由があつて訳出を控えたのであれば、その旨、断るべきである。

原著にない内容 これとは逆に原著にない内容を加えた邦訳もみられる。(理)はこの手紙を記したページの冒頭に「とてもとてもあわせ——大学一年生時代の手紙——」という原著にない題名を加えている。(理)



は他にも「ジャーヴィーぼっちゃん——大学二年生時代の手紙——」のように小説全体を学年ごとに分け、題名をつけている。

(ポ) も同じように小説を全部で19に分け、それぞれ「見たのは黒い影だけ」、「ジュディとよんでね」のように原著にない題名を加えている。

(講) は本文には題名を加えてはいないものの、目次には「二年生になって」、「三年生になって」のように原著にない題名を示している。

これらは原著の改変である。原著にない題名を加えたのは全体の構成を示すことで読者の便宜を図ったものとも考えられる。しかし、これでは原著テキストと訳者が新たに加えたテキストを読者は区別することができない。読者の便宜を考えたものであっても、断りなく新しい内容を加えるのは原著の改変であり、行ってはなるまい。

段落の変更 (講) は原文の段落の途中で改行を施し、段落を分けている個所がある。訳出で特に段落を変える必要のないところである。不注意に改行したものであろうか。原文を改変することになり、望ましくない。また、(10)では、この不用意な改行のため、前後、意味がとりづらくなっている。

翻訳の品質 今回、6冊には翻訳の質に大きな違いがみられた。誤訳、不十分な訳出は相当数にのぼった。今回、分析対象とした手紙に使われたセンテンス、また頭語、結語のようにセンテンスに準じて数えたその数は45である。

翻訳の質を比較するため、誤訳の数を数え上げたのが図1、誤訳ではないが訳出としては不十分な個所について数え上げたのが図2である。図1は誤訳が多かった順に示している。図2は図1と比べて見ることができるよう、図1の訳書の順に示している。

誤訳が一番多かったのは(理)、誤訳が皆無だったのは(岩)と(福)であった。

図1 誤訳の数

(理)	*****	10
(ポ)	*****	8
(講)	*****	7
(偕)	****	4
(岩)		0
(福)		0

図2 改善したい訳出の数

(理)	*****	10
(ポ)	*****	5
(講)	*****	6
(偕)	*****	6
(岩)	***	3
(福)	*****	5

(理)、(ポ)、(講)、(偕)は翻訳としては不備であり、読者に勧めることはできない。とりわけ、(理)の翻訳の品質は低く、これを世に出すことには疑問を感じざるを得ない。(理)は今回、比較した6冊のうちでは刊行年が最も新しい部類に入るものである。後から刊行されたものは先行の翻訳を見ることができるから、翻訳上で有利な立場にある。しかしながら、(理)の翻訳品質は今回、比べた6冊のなかで最も低かった。(理)の訳者は言語感覚にすぐれた高名な詩人であるが、翻訳には不向きであった。

反対に、誤訳がなく、日本語がこなれてよみやすく、原文の意味、意図を忠実に伝えているのは(福)と(岩)の2冊である。改善したい訳出の数については(福)は6、

(岩)は3である。しかし、(福)は英語の理解が正確、日本語に対する感覚が鋭い、原著の意味を忠実に伝えている点で6冊のなかでは抜きん出ている、日本語として素直に自然に読め、こなれた文章で訳され、翻訳として高く評価できる。

## 参 考

比較に使った『あしながおじさん』の原文

215 FERGUSSEN HALL  
September 24th.

Dear Kind-Trustee-Who-Sends-Orphans-  
to-College,

Here I am! I travelled yesterday for four hours in a train. It's a funny sensation, isn't it? I never rode in one before.

College is the biggest, most bewildering place--I get lost whenever I leave my room. I will write you a description later when I'm feeling less muddled; also I will tell you about my lessons. Classes don't begin until Monday morning, and this is Saturday night. But I wanted to write a letter first just to get acquainted.

It seems queer to be writing letters to somebody you don't know. It seems queer for me to be writing letters at all--I've never written more than three or four in my life, so please overlook it if these are not a model kind.

Before leaving yesterday morning, Mrs. Lippett and I had a very serious talk. She told me how to behave all the rest of my life, and especially how to behave towards the kind gentleman who is doing so much for me. I must take care to be Very Respectful.

But how can one be very respectful to a person who wishes to be called John Smith? Why couldn't you have picked out a name with a little personality? I might as well write letters to Dear Hitching-Post or Dear Clothes-Prop.

I have been thinking about you a great

deal this summer; having somebody take an interest in me after all these years makes me feel as though I had found a sort of family. It seems as though I belonged to somebody now, and it's a very comfortable sensation. I must say, however, that when I think about you, my imagination has very little to work upon. There are just three things that I know:

- I. You are tall.
- II. You are rich.
- III. You hate girls.

I suppose I might call you Dear Mr. Girl-Hater. Only that's rather insulting to me. Or Dear Mr. Rich-Man, but that's insulting to you, as though money were the only important thing about you. Besides, being rich is such a very external quality. Maybe you won't stay rich all your life; lots of very clever men get smashed up in Wall Street. But at least you will stay tall all your life! So I've decided to call you Dear Daddy-Long-Legs. I hope you won't mind. It's just a private pet name we won't tell Mrs. Lippett.

The ten o'clock bell is going to ring in two minutes. Our day is divided into sections by bells. We eat and sleep and study by bells. It's very enlivening; I feel like a fire horse all of the time. There it goes! Lights out. Good night.

Observe with what precision I obey rules--due to my training in the John Grier Home.

Yours most respectfully,  
Jerusha Abbott  
To Mr. Daddy-Long-Legs Smith